



特集

新型コロナウイルス 感染症による 影響と対応

新型コロナウイルス感染症による 影響と対応

新型コロナウイルス感染症は、令和 2(2020)年に世界的な大流行に発展し、世界の経済・社会に大きな影響を及ぼしています。

我が国においても、学校の休校や外出自粛、インバウンド需要の減少等により、経済・社会に多大な影響が生じました。高密度を避ける生活様式が常態化する中で、食事をする場所や食べ物の手先が変化し、個々の農畜水産物の需要に大きな影響を及ぼしています。一方、デジタル技術を活用した生活様式の変化は、テレワーク等場所を問わない働き方の進展につながるとともに、オンラインを通じた消費者と生産者、地方と都市との新たな交流をもたらしています。

このような中で、農林水産省は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた農林漁業者の経営継続支援や国産農産物の販売促進・消費拡大等に向けて各般の措置を講じました。

本特集では、これら食料・農業・農村における影響と対応について記述します。

(1)食料消費面での影響と新たな動き

ア 食料消費への影響

令和 2(2020)年 2 月以降、学校の休校や外出自粛、インバウンド需要の減少等により、外食事業者を始め、関連産業に大きな影響が発生しています。

感染症が拡大するにつれ、外出自粛に伴う家庭内消費が増加し、一時的に米やパスタ、冷凍食品等の品目がスーパーで欠品又は品薄になりましたが、食品製造事業者の生産継続や、流通事業者の休日配送等により、食料は安定的に供給されました。

(外食への支出が大きく減少、生鮮食品への支出が増加)

令和 2(2020)年以降の食料消費支出額を見ると、令和元(2019)年と比べ、令和 2(2020)年 3 月以降は外食への支出額が大きく減少する一方、生鮮食品への支出額は増加し、高止まりしています(図表 特-1)。令和 3(2021)年 1 月に緊急事態宣言が再度発出され、回復の兆しが見えた外食への支出額は再び大きく減少しました。